会田市長の座右の銘に思う！

先日、広報かしわざきのバックナンバーをめくっていたら、興味深い記事が目に留まった。市長の随想（本年７月５日号）というコラムだ。

これによると、会田市長は座右の銘として「一隅を照らす」という言葉を持っておられるとのことだ。天台宗の開祖で伝教大師・最澄の言葉だ。自分自身が置かれている場所で全力を尽くすことの大切さを教えている。自分に与えられた場所で精一杯努力し、自分自身が輝くことで社会全体を明るく照らしていく。自分のためだけでなく、人の幸せ、みんなの幸せを求めていこうという意味と受け止めて、自らの戒めとされているそうだ。

人間の生命は、１本のロウソクに火を付けたようなものとして例えられる。燃えながら照らして刻々と減っていく。減っていく生命を減らさないようにすることは、誰にもできない。しかし、その灯りでどこをどのように照らしていくかは、人間一人ひとりに与えられた自由だ。

私は、高齢者人口に仲間入りして３年目。ロウソクは減り、輝きもなくなってきている。だが、自分に与えられたことは全力を尽くして取り組み、ロウソクの火が燃え尽きて消えるまで一隅を照らし続けたい。